

# 図書館おすすめの本

## 八街市立八街北中学校

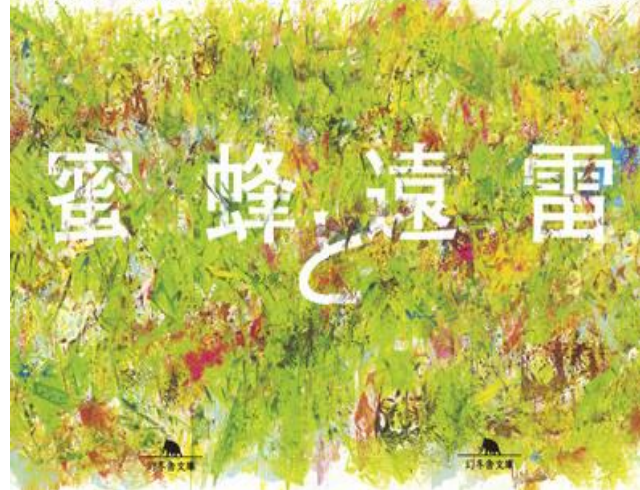
染谷 信雄 先生 が選んだすてきな1冊

『蜜蜂と遠雷 上・下』 恩田 陸/[著] 幻冬舎

私が紹介するおすすめの1冊は恩田陸さんが書いた「蜜蜂と遠雷」です。直木賞と本屋大賞をダブル受賞した作品なので、知っている人もいるかもしれません。国際ピアノコンクールを舞台に、3人の天才（栄伝亜夜、風間塵、マサル・カルロス）と1人の楽器店勤務の男性（高島明石）が主な登場人物です。4人の音楽の孤独と競争、友愛、様々な葛藤や悩みを通して優勝を目指す過程は息をのむほど美しく、胸が締め付けられるほど切ないです。この物語で常に問い続けられたのは、「才能とは何か」ということです。作者の恩田陸さんは国際コンクールの取材を何年も行って、才能というのは「続けられること」で、あらゆる仕事に共通し、ある種の鈍感さ、しぶとさを持った人が才能のある人だと思ったそうです。絶対おすすめです。是非読んでみてください。

次号「冬物語」は八街北中学校 梅本 哲明 先生が選んだすてきな1冊です。お楽しみに！！

蜜蜂と遠雷上 恩田陸 蜜蜂と遠雷下 恩田陸



## 『野原できみとピクニック』

濱野 京子/著 偕成社

私立の中高一貫S学園に通う優弥は、不良に絡まれているところを助けてくれた女子高生稀星（きらら）にひとめぼれ。稀星は底辺の公立高校に通い、アルバイトをしながら弟たちの面倒をみている。そんな二人が出会ったことで、「子ども食堂のカフェ」に集まるようになり、お互いを知り、認め合い、さまざまなことが少しずつ変わっていく。爽やかな心地よさが残る青春ラブストーリー。

## 『願いながら、祈りながら』

乾 ルカ/著 徳間書店

小さな分校に通う5人の中学生と、そこに赴任してきた新任教師の物語。

「生まれる場所は選べない」そんな当たり前のことをどう受け止めて前に進んでいくか、そんなことを考えさせられるお話です。

ジュニア司書  
おすすめ



## 『赤い館の秘密』

A.A.ミルン/著 山田 順子/訳  
東京創元社（創元推理文庫）

「クマのプーさん」シリーズの作者が書いた推理小説です。ミルンさんらしいユーモアも入っており面白いです。



ジュニア司書  
おすすめ

## 『銀魂 映画ノベライズ』

空知 英秋/原作 福田 雄一/脚本  
田中 創/小説 集英社（JUMP J BOOKS）

銀魂人気長編作品。「紅桜編」＋「カブト狩り」のお話です。笑いありバトルありで、原作を知っている人も知らない人も楽しめる作品です。

## 『ヘンな科学 “イグノーベル賞” 研究40講』

五十嵐 杏南/著 綜合法令出版

「ノーベル賞」と聞くと、非常に敷居の高い研究に送られる賞なのですが、この『イグノーベル賞』は、誰も気にしないような研究、「ポテチは音がするとより美味しく感じる」、「なぜバナナの皮を踏むと滑るのか？」といった、ちょっと変な研究（研究者個人の疑問を探求？）に送られる賞です。科学の苦手な人でも、面白く読める1冊です。



## 『モヤモヤしている女の子のための読書案内』

堀越 英美/著 河出書房新社（14歳の世渡り術）

私が中学生のころに出会いたかったという本です。モヤモヤの原因は自分や友達、親や学校、勉強だったり。それを吹き飛ばすのに著者堀越さんが選んだ本です。今の私の心境にピッタリなのは、『予想どおりに不合理』『感情類語辞典』『め切本』です。「はじめに」と「あとがき」も読んでください。図書館にない本は、リクエストという方法で読むことができます。（14歳の世渡り術）の他の本もおすすめです。



## 『紙コップのオリオン』

市川 朔久子/著 講談社

橘 論里(たちばな ろんり)は中学2年生の男の子。両親と妹の有里(あり)の4人家族です。論里が、学校の創立20周年記念行事の実行委員をつとめることになって...



ジュニア司書  
おすすめ